

教育部



百姓一代

教育部副部長 小林 英生

私は73才ですが今も現役の百姓です。

両親はゴムひも製造で生計を立てていましたが、25才頃自分の将来を考えた時、商才がないこと、農林高校卒であることなどから農業しかないと思いメロンやキュウリを作っていました。しかし昭和38年長男が障害をもって生まれたため、手術代を稼ぐには何がいいか必死になって情報を集め、つま菊（サシミをかざる黄い小菊）が良さそうだというのでそれに一生をかける事になりました。それ以来つま菊の専業農家です。

現在幸田町深溝で農地を借りて、パートを雇い、ビニールハウスでつま菊を作っています。



「全国一斉奉仕の日」(9月20日)市内保育園、小・中学校へ雑巾配布



「全国一斉奉仕の日」(9月20日)雑巾配布の西浦地区

す。『農業なんて大した事はない』と思っている人が多い世の中ですが、今は企業で知的産業です。菊を栽培し収入を上げるには植物生理や土壤・肥料の知識はもとより農機具・電気・気象などを理解していかなければなりません。東京生まれで日本福祉大学を出た非農家の青年が私の農場で4年間研修して独立し農地を借りて立派に農業をやっている者もいます。

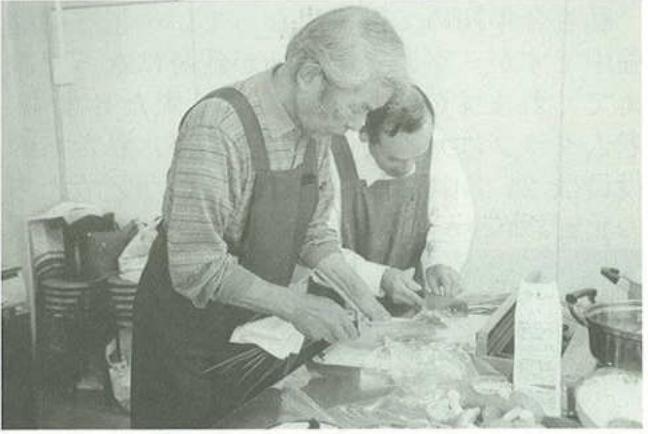
塩津中学校の生徒がここ数年間毎年数名ずつ体験学習に来ます。私は生徒たちにいつも「これから農業は頭の良い子でないと出来ないぞ、大学は何科でも良いから大学に行って、もし農業のおもしろさに気がついたらぜひ百姓になってくれ」といっています。

私の農場の従業員にも老人クラブに入っている人がいてゲートボールをやっているそうです。又カラオケクラブに入っている人や、旅行を楽しみにしている人もいます。そんな人たちと話が合うようになりました。

農業は自然との戦いといいますが本当に自然との大調和だと思います。これからも健康なうちは楽しく働きたいと思っています。



健康づくり食生活改善協議会による栄養教室(9月22日)



男の料理教室(7月21日)中部市民センター調理室

もっと楽しく。

もっと生き生き。